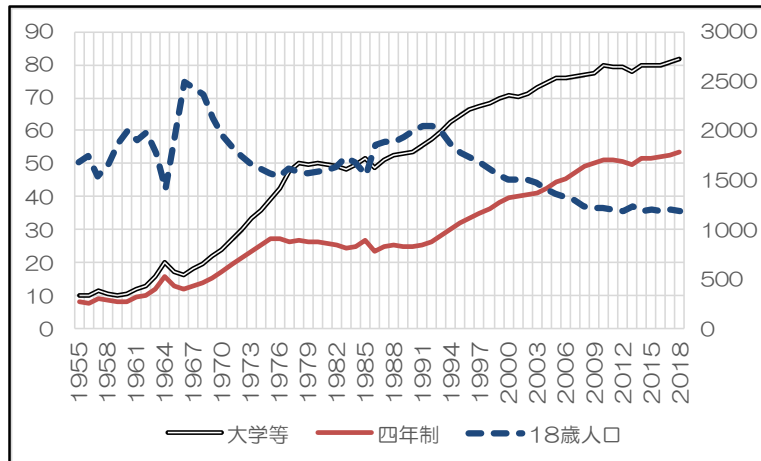


Beyond KUSS , 2020 !!

卒業後のステージ 6回生進行形(その2)

右は文部科学省発表の「学校基本調査」をもとに進路課で作成したグラフです。折線は四年制大学進学率(目盛は左軸), 二重折線は大学等(四年制・短大・専門学校等)進学率(目盛は左軸), 点折線は18歳人口(目盛は右軸, 単位は千人)を示します。「学校基本調査」は例年8月に速報値, 12月に確定値が発表されます。そのため, 2019年のデータはまだ発表されていません。



18歳人口は, 1966年が 2,491,231 人で最多です。第二次世界大戦後の「ベビーブーム世代」です。1970年以降では1992年の 2,049,471 人が最多です。2018年は 1,179,808 人で, 1992年と比較すると 40%以上減少しています。

10年前の人口は 1 億 2800 万人を超えていました。少子高齢化が進行し, 2050年代末には 1 億人を切る推計が出ています。2050年代末, 6回生は保護者世代です。社会要因(戦争等)をとまなわない, 人口減少社会で過ごしていきます。

6回生が向かっていく受験, このような動向と無縁ではありません。すでに四年制大学進学率は50%を超えています。専門学校も含めると 80%を超えます。同世代の50%が四年制大学に進学, さらに30%以上の人たちが何かを学ぼうとしている, これが6回生世代です。1992年当時の進学率は, 四年制大学で26%, 専門学校を含めても57%でした。中等教育学校卒業後のステージ, 保護者世代とまったく異なります。どのような情報をキャッチし, どのように分析・判断するかで受験はまったく異なる方向に進みます。6回生の「受験ベクトル」はどのように推移していくのでしょうか。

夏季講習について考える

塾や予備校等(以下, 受験産業)を利用している人もそれなりの比率でいると思います。学校が受験産業の利用を否定することはありませんが, 利用する限りは有効に利用してもらいたいと考えています。漠然と受験産業を利用してもお金と時間を費やすばかりで, 実力向上は困難です。利用目的を明確にし, 積極的に利用した場合, 実力向上に向かいます。

受験産業の利用目的が明確で, 積極的に利用できる人は, 自身の「学び」が確立している人です。「学び」が確立していない人はいくら利用しても多くの効果は望めません。

18歳人口が多い時代, 受験産業は浪人生優先で, 現役生は受講を制限されました。時代は変わり, 夏季講習は現役生であふれています。実力向上をめざす第一歩は自己理解。夏季休業まで残り2週間, 自分が克服すべき課題を明確にし, 有意義に時間を使いましょう。

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

『Beyond KUSS , 2020 !!』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。